

奈良春日山の貝類

黒田 徳米

奈良春日産の貝類を世に紹介した最初の人
は英國陸軍々醫ハンガーフォード(R. Hungerford)
氏である。氏は一八八一年日本觀光の途長崎、
神戸、京都、奈良、箱根、藤澤、日光等で多數
の陸貝を採集して之が調査を當時香港駐劄獨逸
副領事で、陸産貝類の研究家メレンドルフ博士
(O. F. von Mollendorf) に託したものである
そして其の内のキセルガヒ類に關する報告は一
八八二年のベンゴール亞細亞學會の雜誌第五十
一卷に載せられて居る。該報告書は奈良産のみ
ならず、前記各地でハンガーフォード氏が採集
したキセルガヒが一葉の圖版を添えて記載せら
れて居る、其の際奈良からは日本産として既に
知られて居た四種の外に珍らしい一新種が加へ
られた。

奈良春日山の貝類

筆者は二十餘年の昔平瀬與一郎先生の下に居
たとき藤の花咲き亂れる晩春、同僚の青年とと
もに探勝の序此の珍らしいキセルガヒの再發見
を企てたことがあつた。當時の奈良の神苑は多
少今日と趣を異にして居て、多分ハ氏の採集當
時とはあまり四圍の狀況が變化して居なかつた
であらうと察せらるゝが、前記報告文に記載せ
られた諸種は大樹の下、灌木の間等神前公園内
で比較的容易に採集するゝとが出来た、唯だ吾
人の主目的であつた一珍種キセルガヒのみは兩
人の努力も酬いらるゝことなく時が遷るのみに
氣の焦るのを感じた、然るに偶然全く偶然一憩
の目的で雲表に聳える大樹の青々と苔蒸す樹幹
に對して立つたその瞬間、青苔の間に散點する
見馴れぬキセルガヒに心を躍らしたことがある

斯くて地上から樹幹へ目を轉ずることによつて爰に思ひ設けぬ多數の再發見の喜を見たことがある、是れが恐らく春日産陸貝の第二の採集行であらう。

その後も一二回奈良は訪れたが、その度毎に神苑は清められて公園内に於ける貝類の棲所は次ぎ次ぎに狭められつゝあることを實見した。

昨秋地球學團の企になる奈良地學調査の舉に際して列尾に加へられ今一度び奈良春日山の陸貝分布の状態を調査する機會を與へられ茲に其の概況を報告することは誠に大きな喜びである筆者はそのために九月二十日と十月十一日の二日間實地について採集を試みたが季節の等しい二回であつたため本報を以て直に完全な動物群だと斷ずることはできないのは云ふまでもない春夏、雨後等種々なる環境の下に今少し調査を進めなければならぬものである。

爰に一言斷つて置くべきことは地質の關係か否か單に春日山と云つても陸貝の採集し得られる場所は左ほど澤山には無いことである。元來

分布の廣い種類でも到る所、唯森林さへあれば其所には必ず棲息するとは限らない。四圍の狀況が如何ほど一致して居ても或る未詳な原因で勿論皆無とは云はないが、甚だ凶産である例は何人も實見するところである。その如く春日山も神社の背後七本杉の邊りは地表も案外乾燥して居るのに拘はらず、採集物が多いのに比べて後ろ寄りの鶯の瀧から春日山の南東麓大杉方面には誠に寡ないことを實見した。該山は所謂千古斧鉞を加へずとも云ひ得る自然林に近いものであるが、大形の蝸牛類は甚だ乏しいのを知つた、是れは死骸さへ見當らないことから季節の加減だとばかりは云ひ得ない、或は他の動物によつて被害を受けるものかも知れない。

春日山の貝類相は地理の上から云つても近畿型であるのは勿論である、キセルガヒ類の多いことは特筆するに足る、恐らく植物に支配せらるゝものであらう。マイマイ類には同じ大和と云つても紀の川流域型のものが這入つて居ないやうである。

有 厝 類 (前鰓類)

一、*Diplommatina (Sinica) cassa*

Pilsbry コノガム

越後、加賀、信濃、飛騨、近畿、中國、淡路、四國北部等に廣く分布する。僅かに三個を得たに過ぎない。

二、*Pupinella (Pupinopsis) rufa*

(Sowerby) アヅキガム

近畿地方より西部日本即ち四國、中國、九州、朝鮮南部に亘つて廣く分布する一種で、多數に産する。

三、*Cyclophorus herklotsi*

V. Martens ヤマサダH

(一名ヤマタニシ)

前種よりも更に廣く分布する一種である。以上三種は何れも地上生活(terrestrial)を營む。邦産の普通種である。

有 肺 類 (柄眼類)

四、*Phaedusa (Hemiphaedusa)*

platydera (V. Martens) ツムガタギ

セル (第一圖)

東海道西部、近畿地方に分布する中形的一種である。

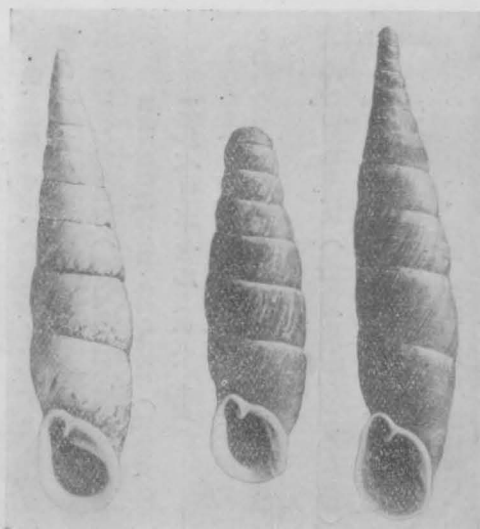
五、*Phaedusa (Hemiphaedusa)*

gracile (Pilsbry) イウビギセル

奈良春日山の貝類

(第六、七圖)

本種は從來僅かに紀伊那智山から採集せられたばかりで其の後該地方を訪れた採集家達も遂に再發見の喜を持ち得なかつたもので、最小キセルガヒの一種である、七本杉の後方大楓の根本に於てのみ標本十數個を得た。



3

2

1

一、ツムガタギセル
三、シロナミギセル

二、シリオレギセル
(約二倍廓大)



四.五.ルセギコミナ 六.七.ルセギビウイ 八.九.ルセギリベルエ 十.十一.ルセギコガスカ

(約三倍廓大)

六、*Phaedusa* (*Tyrannophaedusa*)

bilabrata (Smith) ヘルナシギセル

(第二圖)

近畿、四國、中國、九州に廣く分布する、老成すれば必ず螺頂が脱落する特性を有する、數個を得た。

七、*Phaedusa* (*Tyrannophaedusa*)

aurantiaca erberi (Boettger)

ヘルベリギセル (第八、九圖)

近畿地方、播磨、紀伊、近江、越前等には殊に多數に産する淡肉色の小形種で、春日神社前庭の朽木で百個以上も採集した。

八、*Phaedusa* (*Stereophaedusa*)

japonica kobensis (Smith)

ヘルナシギセル (第三圖)

中形の普通種で、近畿、北陸南西部、四國北部、中國等に分布する。

九、*Phaedusa* (*Euphaedusa*) *hung-*

fordiana (M Iendorf) カスガロギセル

ル (第十、十一圖)

本種は春日には探し方さへよければ今日もなほ多數採集し得る一種でハンガーフォードの新發見である、白雲彩を有す

る黒色帯を繞らす珍しいキセルガヒで、筆者は先年京都上賀茂神社で兩三個採集したことがある外は他に未だ發見されない。

類似種ナミコキセルは地上や樹幹の寧ろ低い所に産するのに対し本種は一二メートル以上の樹幹に限つて、青苔の間に棲息するのを原則とする arboreal の一種である、色彩の外に殻口内に上板 (superior lamella) と云ふ齒狀板が缺除して居ることが著しい特徴である。

一〇' *Phaedusa (Euphaedusa) tau*
(Böttger) ナミツキヤル (第四、五圖)

北は佐渡、東は高崎市から西は九州豊前に亘る廣い區域に極めて産する一種である、曩には浙江省からも報告せられたことがある。

一一' *Opeas clavulinum kyotoense*
Pilsbry & Hirase. テカチャウジガヒ

北は北海道から南は喜界島まで殆んど全國的に分布する普通種である、白色半透明で黄色の動物體を有する一種である、櫻樹に伴はれて渡來し今はニューイングランドの土着種となりかけて居ることは著しいことである。

一二' *Chloritis (Trichochloritis) fragilis* Gude ケハタクロウドマイマイ
京都、近江、大和、播磨、佐渡等に分布するが非常に寡産

奈良春日山の貝類

で稀種とせられて居る、特に濕潤な場所に棲むが七木杉へ登る小徑の傍の朽木の下で二個採集し得た。

一三' *Ganesella japonica* (Pfeiffer)
ニシホハマイマイ

磐の瀧附近で一死殻を得たばかりである、本種の分布は近畿地方以東の本州であつて伊豆諸島、佐渡等にも産する。

一四' *Euhadra analiae* (Kobelt)

クキヅニハマイマイ

一五' *Euhadra herklotzi communis*

Pilsbry ナミハマイマイ

右兩種は關西地方の部落部に産する最大の普通蝸牛で、前者は樹上性、後者は地上性の多少違つた習性を有する、是等は雨の直後でなければ採集は寧ろ困難である、僅かに數個を得た。

一六' *Trishopita mesogonia awajensis* (Pilsbry) アハチオメハマイマイ

樹下の草の間、樹幹等で十餘個採集した、上記の種に最も近似するが原産標品よりは大型である、淡路、阿波、紀伊等に分布するやうであるがその區域は未だ充分判つて居ない。紀伊由良に非常に近似する一型が産するが周縁に全角を有するから本亜種とは別だと信ずる。

一七、*Aegisia (Coeloforus) cavicollis*

(Pilsbry) クチマガリマイマイ

近畿地方即ち近江、京都、紀伊、淡路等に分布する地上性の小蝸牛で鱗片狀殻皮を被つて、殻口が著しく下向いた奇形種である。

一八、*Aegisia (Plectotropis) vulgi-**vaga* (Schmacker & Böttger) オホケ

マイマイ

關東、四國、中國に廣く分布する普通種で山間部にも村落部にも産する臍の廣い低平な笠形の蝸牛で、新鮮な殻には鱗狀殻皮と周縁に齒車狀の毛狀附屬物を有する。

一九、*Microcystina vaga* Pilsbry &

Hirase. バガヒメベツカフ

地表の平均傾斜測定法に就て

湯 淺 篤 一

一、緒 言

地面平均傾斜の特質は地表の科學的研究並に

越前より紀伊、阿波等に亘る地方に産する栗色鼈甲質の小貝である専ら倒れた朽木の皮の間等で採集し得る。

二〇、*Sitala (?) palida* (Pilsbry) ウスイ

ロシタラガヒ

泉州水間村で採集せられた以外未だ他で知られて居ない寧ろ珍種である、淡角色ベツカフ狀の小蝸で七本杉へ登る小徑附近の灌木の葉裏で十個ばかり採集した。

以上は採集した全部であるが、この外殆んど何所にも産する筈の普通種で手に入らなかつたものが相當にあること、先年島津製作所の所員が奈良女子高師の校庭の樹木で *Limax* cf. *flavus* Linne (カマザ) を多數採集したことがあることとを附記する。

工學上の諸施設に關係する處が深く、從つて其の描寫法並に測定法は今迄隨分多くの人々によ